



手前の半円筒形の建物が仙台空港鉄道の仙台空港駅。奥の緩やかなカーブの屋根は仙台国際空港のターミナルビル。駅とターミナルビルは通路でつながっており、出発ロビーに直接入れる。

# 宮城県 仙台空港鉄道 仙台空港線

文・渋谷申博  
text by Nobuhiro SHIBUYA



連載 第15回  
民営鉄道の  
起源を訪ねて  
鉄路は何を目指したか

## 空の玄関への アクセス路線

仙台空港鉄道は社名が示すとおり、仙台空港へのアクセス路線であるが、一般には「仙台空港アクセス線」の名称の方が知られているかもしれない。

「仙台空港アクセス線」は仙台駅と仙台空港駅を結ぶ鉄道の運行系統の愛称で、仙台駅から名取駅までのJR東日本・東北本線と、名取駅から仙台空港駅までの仙台空港鉄道の仙台空港線からなっている。

仙台空港は「東北の空の玄関口」とも呼ばれるが、仙台の「東北の玄関」としての歴史は奈良時代以前にさかのぼる。この地は、東北と畿内を結ぶ古代の公道が交わり、人や物資が行き交う場所であった。

仙台を都市に発展させたのは、初代仙台藩主・伊達政宗であった。政宗は仙台城とともに城下町も建設しており、これが東北の中心都市・仙台の基礎となった。

また、政宗は仙台城築城に伴い奥州街道を東に移動させ、増田宿を新設した。この増田宿が名取駅の起源といえる（名取の地名そのものは8世紀頃から使われている）。まずは空の玄関口を見ようと、仙台駅から仙台空港鉄道のSAT721系に乗って仙台空港駅に向かった。

仙台国際空港の歴史は昭和15（1940）年に開港した矢ノ目飛行場に始まる。当初は日本陸軍用で、民間空港としての使用は昭和32（1957）年からとなる。大きく

## 仙台城(青葉城)



初代仙台藩主・伊達政宗によって築城された。慶長7(1602)年には一応の完成をみたという。広瀬川を臨む地勢のけわしい場所にあるが、幕府に逆らう意がないことを示すために天守は築かれなかったと伝わる。

## 伊達政宗騎馬像



仙台城本丸跡にあり、仙台のシンボルともなっている。政宗は築城と並行して城下町の造成にも力を入れており、この開発が現在の仙台の基礎となった。仙台空港線が走り仙台国際空港が立地する名取市の一帯も、この時期に整備が進んだ。

## 美田園駅



仙台空港駅の一つ手前の駅で、周辺は住宅・商業地域として開発が進められている。駅の北側には総合教育センター・美田園高等学校・子ども総合センター・中央児童相談所・リハビリテーション支援センターを一体化して整備した「まなウェルみやぎ」がある。

## 仙台空港鉄道株式会社

Sendai Airport Transit Co.,Ltd.

設立 2000年(平成12年)4月7日  
仙台空港線 名取～仙台空港(7.1km)  
<https://www.senat.co.jp>

## 仙台空港線 路線図



## 杜せきのした駅



市役所や文化会館、市民体育館などに隣接した利便性が高いエリアにある駅。延床面積14万2千平方メートルの巨大ショッピングセンター・イオンモール名取とはデッキでつながっている。

## 仙台国際空港



世界に開かれた東北の空の玄関口。2本の滑走路をもち、国内各都市をはじめソウル、上海・大連・北京、台北、香港などへの便が発着している。

## 下増田神社



仙台国際空港から海側(東)に0.5キロほど行ったところに鎮座する、大同年間(806～810年)創建と伝わる古社。大日靈命・伊弉諾尊・伊弉册尊などを祀る(上)。境内には東日本大震災の津波で殉職された消防団員の慰霊碑がある(左)。

飛躍するのは、平成2(1990)年に東北初の国際空港となってからで、仙台空港アクセス線も平成19(2007)年に開業している。

実は仙台国際空港を利用するのが初体験だった私は、思っていた以上の規模と賑わいに、少なからず感動してしまった。せっかくなので空港内をあちこち見学し、地元グルメの牛タンを堪能した。

さらに空港近辺もぶらり。空港から徒歩5分ほどのところに鎮座する下増田神社は、小規模ながら9世紀に創建されたとされる古社だ。その境内の一隅には、平成23(2011)年3月11日の東日本大震災の際、津波によって殉職された消防団員の慰霊碑が建てられている。

震災では、旅客や周辺住人、従業員の方々は空港のターミナルビルに避難して津波の難を逃れたそうだが、空港も仙台空港線も大きな被害を受けた。

しかし、16日には滑走路を部分的に復旧し、空港は救助復興作業の拠点となった。仙台空港線も7月23日より名取～美田園駅間で運行再開、10月1日には全線で運行再開となった。

仙台空港線の各駅を乗り降りしながら数往復してみても、仙台空港駅だけでなく、杜せきのした駅や美田園駅でも乗降者が多いことに気づいた。この路線は地元の足として定着しているのだろう。旅の終わりに、杜せきのした駅直結のイオンモール名取に立ち寄り、買い物しながらひと涼みし、帰路についた。

## しぶやのぶひろ

1960年、東京生まれ。早稲田大学第一文学部卒。日本宗教史研究家。「参拝したくなる!日本の神様と神社の教科書」(ナツメ社)、『聖地鉄道めぐり』『全国名所図会めぐり』(以上G.B.)、『猫の日本史』(出版芸術社)、『トホホな日本人物伝』(時事通信社)ほか著書多数。